

若手・女性研究者を主な対象に、国際的影響力の高い学術誌(WoS/Scopus収録誌)への英語論文の投稿を支援することにより、研究成果の国際的発信力を一層高め、大阪大学の研究力の強化を促進する。

本事業のポイント

英語論文投稿・掲載時の費用面でのサポートの実施

- 校正支援
- OA(オープンアクセス)支援

若手・女性研究者への支援強化
若手・女性研究者への支援件数の優遇

柔軟な受付体制

研究者が利用しやすいように、毎月受付期間を設定

専門性の高い支援

博士号をもつURAとアウトリーチ専門家によるチーム構成で、適切なアドバイスが可能

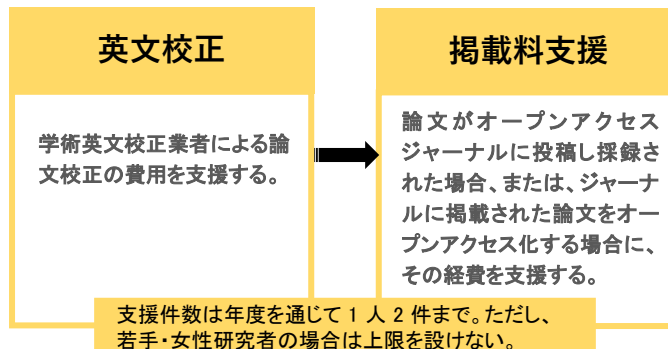
取組実績と得られた成果

平成26年度6月から本プログラムを開始して以来、研究者の声を反映させ、支援対象の拡大、支援内容の追加、支援チームの増員、附属図書館を始めとする関係部局との連携によってプログラムを充実してきた。令和元年度にはOA(オープンアクセス)支援を開始し、合計 113 件のOA支援を実施した。その他、令和3年度までに合計 591 件の校正支援と、合計 423 件のOA支援を実施した。

令和3年度より、電子ジャーナルに関する「転換契約」に関する検討を本格化し、本プログラムによる支援と「転換契約」による出版との整合性の検討を進める等、研究情報の発信に関する国内外のトレンドに呼应した支援を実施した。

本事業の目指すイメージ

研究者が真に必要とする支援を効率よく提供 **費用支援**



- ・研究成果の国際的発信力を一層高める
- ・質のよいジャーナルへの投稿を支援する
- ・国際共著論文の出版促進につなげる
- ・本学の研究力の強化につなげる
- ・国際共同研究を後押しする

採択者の声

校正支援: 学内にこのような支援があると英語論文投稿へのハードルがかなり下がるように思います(医学系研究科若手研究者)。論文投稿のモチベーションにつながります。回数制限の緩和があるシステムは、画期的だと思います(工学研究科若手研究者)等

OA支援: 費用が高額なので躊躇するところを支援いただきありがたい。学生の投稿先の選択肢が広がりました(医学系研究科女性研究者)。エンバゴ期間を待たずに出版直後からオープンアクセスできるようになるので発信力がまるで違う(歯学研究科女性研究者)。支援が無ければオープンアクセスにできなかった(理学研究科若手研究者)等



大阪大学
OSAKA UNIVERSITY



B(3)①-2 人文・社会科学系研究成果の国際的発信支援

研究大学強化促進事業



OPEN 2021

人文社会系の研究成果を諸外国に発信するに当たり、言語の壁が大きな障壁となっている現状に鑑み、本学研究者による出版物等の国際的発信(外国語翻訳業務等)を支援することによって本学の研究分野における国際的な存在感を高める。

本事業のポイント

本学の教員によって日本語で著述された「人文・社会科学系の研究者向けあるいは一般向け図書(単著・論文集)」、または「大学生または大学院生向け教科書」として既に出版されており、一定の評価を得たものに対して、英訳費用を最大200万円支援する。

取組実績と得られた成果

●支援件数

16件(平成27年度～令和3年度)

●分野

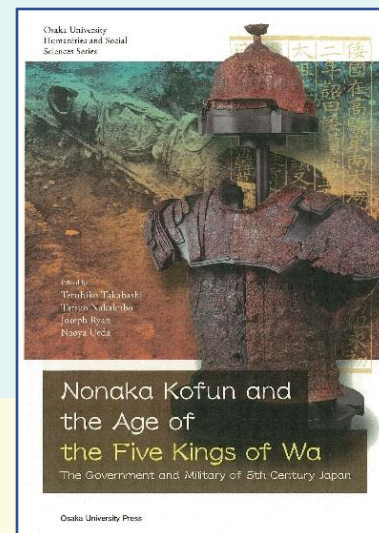
日本語学、考古学、計量社会学、教育社会学、国際法、哲学、知的財産法、音楽学 等



高橋 照彦、中久保 辰夫 編著
ISBN978-4-87259-220-7
大阪大学出版会

英訳

高橋 照彦、中久保 辰夫 編著
ISBN978-4-87259-549-9
大阪大学出版会



関係部局と緊密に連携し、国内外から専門家を招き、研究情報の国際的発信をテーマとしたセミナーやワークショップを企画、実施する。

本事業のポイント

英語論文の投稿支援事業の取組実績(個別支援)を踏まえ、より幅広い研究者、学生や関係者に、英語論文の書き方、海外ジャーナルへの論文投稿における対策等について知見を深めてもらうため、セミナー等を企画・実施しています。

取組実績と得られた成果

平成27年度より、附属図書館、全学教育推進機構等の部局と連携し、下記のように研究情報発信において幅広くカバーし、様々なテーマを取り上げ、外国人研究者や人文社会系研究者の積極的参加も意識し、平成27年度から令和元年度までに合計20回のセミナー等を企画・実施した。本学の教員、大学院生等のべ2135名以上が参加。

英語論文のスキルアップセミナー

- Natureや一流ジャーナルへ挑もうワークショップ(H28-R1年)

投稿知識

- 受理されやすい科学論文の書き方セミナー(H28-R1年)

リソースの利活用

- ホームページを使った研究成果の発信ワークショップ(H28年)

プレゼンテーション等のスキルアップ

- プレゼンテーションのスキルアップセミナー(H28年)

人社系の情報発信

- ケンブリッジ大学出版社によるセミナー:論文や本を出版する方法(H29年)

セミナー・ワークショップの様子



科学論文の書き方セミナー



How to Publish Your Articles/ Books?
Advice from Cambridge University Press

新たな取組として、セル誌やサイエンス誌のエディターを招へいし、ラボ訪問を開催した。(H28-R4年)

- 微生物病研究所、医学系研究科、生命機能研究科(IFReC兼任教員も含む)と連携。
- PI級の研究者(准教授以上)10名を対象に、国際著名誌エディターとの直対談を実現。
- 参加者により、大阪大学についてエディターに知ってもらうことに意義がある、エディターからの示唆を研究に反映させることによって、論文が採択されやすくなる面がある等のフィードバックがあった。

新取り組みとして、アカデミック・ライティング能力習得のために、Nature Masterclasses オンライン講座を導入した。(R2.12-R5.2)

令和4年以降も、図書館や部局間の連携も引き続き強化しながら、新しいテーマを取り入れ、セミナー等を企画する予定である。